



平成31年3月1日現在	
総世帯数	7,595世帯
総人口	16,915人
男	8,410人
女	8,505人

知ってよかった 松本城と世界遺産

「あなたの知らない松本城と世界遺産」と題した特別講座が芳川公民館で開催されました。3月5日は座学で、11日は、実際に松本城に登城して、最新の研究に基づくお城の魅力をたっぷり学びました。

市民ですから登ったことの無い人はいませんが、解説付きは初めてという方がほとんど。座学でもお世話になった南山先生はじめ3人の専門家がそれぞれグループを率いてくださいました。

座学で学んだ二つの層を結ぶ通し柱に触れたり、外からはわからない、秘密の階・3回に入っていたり、殿様の御座所を想定した4階や「野づら積」と呼ばれる石垣の構造など、多くを学びました。

お城の天守閣は、信長の安土城に始まり、徳川の時代になって一国一城令によって、新しいお城の建築が出来なくなるまで、わずか五十年余りの間に出現した特異な建物です。この特殊性をアピールして、松本城をはじめました

城郭群を「世界遺産に登録しようというのが、目下の戦略とのこと。これから桜の季節、花見を兼ねて、お城を訪ねてみてはいかがでしょう？



▲座学：松本城研究専門員の南山孝先生による講義



▲松本城に使われている柱の説明を受ける受講者



スマートホンの 使い方に気を付けよう！

芳川地区子ども会育成会では、平成31年1月27日、筑摩野中学校の小川文徳先生をお招きし、「実例で学ぶネットトラブルの危険性とその対処法」と題した講演会を開きました。

講演会では、子どもたちがSNSやインターネットによりいじめや大きな被害に遭う事例が紹介されました。参加者からは、「子どもにもこの講演会の内容を伝え、スマートホン使用のルールを家族で決めようと思う。」という声がかれました。

筑摩野中学校の小川先生から、これから新たにスマートホンを持つ子どもに向けてメッセージをいただきました。

「スマートホンは、子どもだけでなく大人にとっても非常に魅力的なもの。単に携帯電話+PCの機能を持つだけでなく、各種サービスを簡単に使える「アプリ」の存在が、無限とも言える世界を提供しているからである。ただしやはり小中学生の所持は要注意だと思ふ。スマホによる時間的拘束、心理的拘束が大きなトラブルを起す例が絶えないからである。個人的にはできるならば高校生になるまでスマホを持たない方が絶対に良いと思ふ。」





首都圏での修行を経て、旬で地域色のある食材を求めて松本へやってきた大塚泰裕さん。小屋南にケーキ店を構えたのが2年前の3月。みずみずしい松本産のセロリに魅せられて作り上げたのが今回のケーキ。セロリの食感や風味を生かしています。「難しい食材をまとめられたことを審査員に認められてよかった。地域の食材を生かすことが、生産農家のみなさんの励みになり、松本産セロリのPRにつながれば」と大塚シェフ。

松本スイーツコンテスト グランプリは小屋南 「ニューモラス」の大塚シェフ



子育てと働き方を考える 講演会を開催

2月24日、芳川地区男女共生を進める会主催による講演会が開催されました。市によれば、市の審議会等への女性参加の比率は、目標の40%に対して、33%に留まり、私たちに身近な町会長さんは市全体でも11人、芳川はゼロです。中学生へのアンケートでも子育ては女性の役割と考える割合が高いのが現状です。講演会では、(株)和is社長の丸山康彦さんから「人も自分も喜べる働き方が、豊かな生活・男女共生・二億総活躍社会に繋がる」という話や本郷地区の三才山町会を例に「地域でのつながりの強さが男女共生だけでなく、地域包括ケアなどを地域の絆を深めることに繋がる」との講演をして頂きました。



芳川の今昔物語

小屋稲荷様の井戸

その昔……

昭和30年代には、水田用の井戸の掘削が盛んに行われ、それまで原野や桑畑だったところが開田され、コメの生産面積が増えていった。都波岐うばき神社の北で掘削中の井戸。当時は櫓を組んで、何日もかけて突いて掘ったものだ。



▲昭和30年代の撮影か？

第26話



▲平成31年2月28日撮影

現在は……

小屋で唯一残っている井戸で、現在も水田用に使用中。小屋堰の用水路は、当時と変わっていない。

たちばなし

平成はバブルの崩壊に始まり、デフレ、リーマンショック、温暖化による異常気象、アメリカの同時テロ等の世界的なテロの蔓延等心休まる時の無い三十年間でした。

昨年一年だけ見ても一國主義等の台頭、貿易摩擦、温暖化による高波、森林の大火災等の異常気象、イスラム国の衰退、シリア等の難民問題と混沌の一年でした。

日本でも台風の高発等による風水害・酷暑・大地震、天皇陛下の退位等、話題に事欠かない一年でした。

幸い当地では酷暑と水不足ですみ比較的無難な一年を過ごす事が出来たのではないのでしょうか。

さて現在の日本の一番の問題は少子高齢化ですが幸い芳川地区では環境にも恵まれ子供を含め人口の増加が続いています。何時までも続くわけでもないでしょうが、少しでも長く芳川地区の発展を祈ります。

